

## みらい平市民センターからはじまる まちづくり 議事録（トークセッション）

司会： 皆様、本日はお忙しい中、市民協働シンポジウム「みらい平市民センターからはじまる まちづくり」にお越しいただきましてありがとうございます。本日のイベントは、トークセッションならびにパネルディスカッションの2部で構成されたシンポジウムでございます。

第1部は、市民との協働のまちづくりや、みらい平市民センターの活用などについてのトークセッションでございます。

第1部の出演者をご紹介します。小田川市長でございます。

第1部のコーディネーターを務めていただく、茨城放送会長の北島様でございます。

北島様は、元朝日新聞記者で、記者時代は社会部、科学部のほか、ワシントン特派員などを歴任し、2012年から茨城放送社長を務め、昨年6月から会長に就任。昨年9月につくばみらい市に移住し、今年1月、つくばみらい市や常総市、坂東市など周辺地域で活動する「NPO法人みらい倶楽部」を立ち上げ、副理事長兼事務局長を務めていらっしゃいます。

本日は、幅広い知見と、まちづくりの実践者、そして一市民の立場で多角的に質問していただきます。それでは、北島様よろしくお願いたします。

北島： ただいまご紹介いただきました北島と申します。私は、先ほどご紹介いただきましたように、新聞記者を30年間勤め、北は山形、南は名古屋、西は甲府、東はワシントンなど、あちこち13か所に異動いたしました。その後、昨年9月より、つくばみらい市に引っ越してまいりました。

今日はまちづくりの話を中心にお聴きしますが、まちづくりに大事なのは「若者・バカ者・よそ者」とよく言われます。私は若者ではありませんが、よそ者であり、バカ者ですので、今日はいくつか質問させていただきます。

この建物の窓からは筑波山が見えるなど、恵まれた場所でございます。今日は、このみらい平を中心としたまちづくりについて、質問させていただきます。

まず、このみらい平市民センターの設立にあたり、どのような思いや目的があったのでしょうか。

市長： 皆さんおはようございます。市長の小田川です。今日はよろしくお願いたします。本日に大勢の方にいらしていただき、ありがたいと思っております。

このイベントは、みらい平市民センターがオープンしたのが8月24日でしたので、そのオープニングイベントということで企画していたのですが、緊急事態宣言の影響により、延期となってしまいました。ようやくコロナの感染も落ち着いているということで、イベントを開催させていただいています。

まず、市民センターができるまでの経緯をご説明させていただきます。きっかけは、私の中では郵便局でした。私の公約の中に、みらい平の駅前に郵便局を作るということを掲げており、用地を探しながら、日本郵便と話や協議を続けておりました。これまでも要望活動はあったのですが、なかなかうまくいっていなかったという現状があ

## みらい平市民センターからはじまる まちづくり 議事録（トークセッション）

りました。そのため、私は、郵便局長さんたちにお願ひしまして、郵便局長さんたちから声をあげていただくという形で郵便局の設置にこぎつけたということがあります。

また、候補地として駅前など、色々な所を探していたのですが、なかなか適当な所がありませんでした。皆さん感じていらっしゃると思いますが、郵便局はどこも駐車場が狭くないですか。聞きましたら、郵便局には駐車場という概念が無いとのことでした。そもそも駐車場が必要でない施設と考へているようで、駐車場が広いところが無いというのが今までの郵便局でした。それを考へると皆さん車で移動されていますので、郵便局だけを作っても駐車場が無ければ厳しいかなという思ひがありました。

そして、郵便局を探しはじめて、計画をして、郵便局ができるとなった時に候補地を探したところ、この場所がありました。しかし、ここは県の土地で、ここに建築計画があるということを知りましたので、そこを市役所で借りることができないか、その一角に郵便局を作ったらどうかという計画を最初に立てたことが、市民センターを作るスタートになりました。

今、市の人口は5万2千人ほどですが、その3分の1はみらい平地区になります。伊奈庁舎、谷和原庁舎があつて、みらい平地区にも市民の皆さんが使える市民窓口も含めて、そういった施設があつたほうが、皆さん便利になり、喜んでいただけるということで、郵便局のほか、市民窓口を作って、2階、3階、4階まで会議室も含めて市民活動の場にしよう。そして、ここをまちづくりの拠点としたらどうかということで、市民センターを作ったということになります。

北島： ありがとうございます。立派な建物が出来ても、大事なことは、それを市民の皆さんが活用できるかということです。まちづくりは、市民が幸せかどうかということだと思います。今日来ている皆さんも主役になると思いますが、皆さんがこのセンターをどのように利用できるのかということで、各フロアの役割を教えてください。

市長： 1階は、総合窓口となる市民窓口課があります。各証明書発行をしますので、税証明や住民票をはじめ、その他証明書の発行、受け取りができるようになっております。平日のみならず土曜日も開庁しております。

次に2階です。みらい平エリアは、若い世代の方がたくさんいらっしゃいます。そしてお子さんの非常に多いエリアになっており、茨城県内でも18歳以下の人口が、人口比率でいうとつくばみらい市が一番です。そのような中で、みらい平のコミュニティセンターの子育て支援室で若いママさんとお話をしました。そこで、妊娠しているときから周りに相談する人がいなかった。実家も遠い、ご主人は昼間お仕事をされている、また、周りに友達もいなかった、お子さんが生まれてやっと子育て支援室が使えるようになったという話をお聴きしました。お子さんをこれから育てよう、出産の準備をしようとしているという方の相談の窓口、相談のできる場所がなかなかありませんでした。出産する前や妊娠している時から子育て、お子さんが生まれて子育てが始まるまで、どのようにサポートできるかを考へて、一括でここに来れば何でも

## みらい平市民センターからはじまる まちづくり 議事録（トークセッション）

相談できる所を作りたい、作ろうということで2階におやこ・まるまるサポートセンターを始動したというところです。

（スクリーンを見て）右側の青いものがおもちゃです。色々と組み立てて頭を使いながら遊べるおもちゃです。また、保健師、保育士が常駐しており、様々な相談ができるというところです。

3階は、市民活動まちづくりセンターでございまして、ここからNPO法人を立ち上げたい、ボランティアをやりたい、市民活動に参加したいという方々が集う場所です。そして、私は、このカウンタースペースでは高校生たちが勉強してもいいなと思っています。空いた時間、ここで一息ついてもらう、一休みしてもらう場所として使っていただいても良いですし、テーブルを使ったミーティングルームとして活用していただいても良いです。自由に誰もが使っていただければいいなと思っています。

そして4階は、M-SPACEと名付けております。大会議室と（スクリーンを見て）テレワークができるスペースということで、M-SPACEと名付けた経緯があります。6部屋テレワークのスペースがあり、時間貸しですが、民間の時間貸しと違って非常に安いです。半日200円、400円位の金額です。緊急事態宣言の時は、ここで勉強している高校生がいました。土日も利用している方が多く、また、見晴らしも良く、明るくて環境の良い中、テレワークなどで利用いただいているところです。

北島： M-SPACEの「M」の意味はなんでしょうか。

市長： 「みらい」という意味で「M」とつけさせていただきました。

北島： 私は、昨年9月につくばみらい市に引っ越し、ここに住んで1年過ぎましたが、思ったことが一つあります。谷和原、伊奈、みらい平というように、地域には3つくらいの塊があると思っています。市民の皆さんがまちづくりに取り組むうえで重要なのは、連帯感だと思っています。私はまちづくりを進めるうえで、ここを第2のふるさとにしてほしいと思っています。今まで長く住んでいる方も新しいまちづくりに参加する、あるいは新しく来られた方もここを第2のふるさとにしてほしいという考えがあります。様々な政策に盛り込むこともできるのではないかと思います。おそらく、みらい平に住んでいる方も、ただ、東京に通勤するのに便利だということではなく、終の棲家という思いもお持ちだと思います。それならば、第2のふるさとを大事にしたい、あるいは自分たちも参加してまちづくりに取り組みたいという気持ちもあるのではないかと思います。このようなことを政策に盛り込むという考えはいかがでしょうか。

市長： 政策に反映させるというところでは、非常に大きなテーマとして捉えなければいけませんので、たくさんのメニューを作っていかなければならないと思っています。ただ、終の棲家、第2のふるさととさせていただくには、市民の方につくばみらい市をよく知ってもらわなければいけないと思っています。ただ見た目がいい、便利、そういったところしか見えてこない、ふるさとというような感情までいかないと思います。

## みらい平市民センターからはじまる まちづくり 議事録（トークセッション）

皆さんポスターを見ていただいたことがあるかもしれませんが、現在、シティプロモーションで行っている「I LIVE IN TSUKUBAMIRAI」というものがございます。

（スクリーンを指して）これは市民の方です。このポスターを作ったきっかけというのは、これまでの市のPRやシティプロモーションというのは、例えばつくばエクスプレスの秋葉原駅に「つくばみらい市に行きましょう」、「つくばみらい市に住んでみませんか」といったキャッチフレーズで行っていたものがほとんどでした。他の自治体をもみても大体同じで「移住するなら〇〇」という感じでした。そうではなく、市民向けに、今一度、自分たちの住んでいるまちの良さを知ってもらおうということを考えて「I LIVE IN TSUKUBAMIRAI」という一つのキーワードを掲げました。この言葉だけでも人それぞれ感じることは全然違うと思い、「I LIVE IN TSUKUBAMIRAI」だけ書いて、100人の市民の方にモデルになっていただいて、ポスターにして様々なところに貼らせていただいています。

このようなことから、市民が自然につくばみらい市に愛着を持っていただけるようになり、良いまちだと感じてくれるようになることで、市民の中から外にそういった気持ちが生み出されていき、他所に住んでいる人が「つくばみらい市ってそんなにいいの」と関心を持ってもらえるような、市民が広告塔になってもらえるような意味合いも含めてこのような活動をしています。

北島： 地方創生ということで、どの自治体も地方創生に必死に取り組んでいます。

一番大きい課題は人口減少です。市長がおっしゃるように、自分のまちを知ること、愛すること、つくばみらい市の魅力を多くの人に感じてもらうためには、まちを理解して愛することが大事だと思っています。

もうひとつ大事なことは、人口増とともに、質を高めることも大事だと思っています。住んでいる方が「ここに住んで良かったね」と思っただけのこと。そのような生活の質などが問われているように感じますが、そのあたりいかがでしょうか。

市長： 私は、まちづくりで一番重要なことは教育だと思っています。そのため、教育に力を入れなければならないということをメインに考えているところです。その中で子どもたちの教育に、行政がどれだけ力や愛情を注げるかということだと思います。そこを中心にまちづくりを考えていかなければいけないと考えております。

北島： 今、教育の話が出ましたが、市長は毎年、その年の漢字一文字を発表していると聞いております。令和2年は「挑」、令和3年は「育」という漢字です。「育」という漢字には、教育以外の思いも込められているのでしょうか。

市長： 「まちづくり」というように一言で片づけられるわけではなく、様々な施策、事業を行っていくのは行政として当然です。すべてにおいて「育」という言葉は通じていると思っています。農業、産業、教育も育むといったものでありますので、すべてにおいて「育てる」、「育む」というということを中心に考えています。

## みらい平市民センターからはじまる まちづくり 議事録（トークセッション）

北島： 「育む」という点において、個人的な話ではございますが、つくばみらい市に引越してきて、自宅の庭で家庭菜園を始めました。夏はスイカ作りなどをしましたが、素人なため、失敗続きでしたので、近所の方に相談したところ、作物の育成方法のアドバイスをいただくとともに、その後、野菜などをいただくようになりました。私は、つくばみらい市には、このような近所づきあいがあるのだなと感じました。災害時には、自助・共助・公助という言葉がございまして、最近では近所という話もありまして、つくばみらい市にはこのような近所づきあいがあるのだなとびっくりしました。

また、私はアメリカで、ホースセラピーというものを取材したことがあります。人付き合いで精神を病んでしまった方などが、馬を飼育したり散歩をしたりすることで精神状態が安定するというものです。セラピーでは、ほかにもドッグセラピーなどがありますが、ガーデンセラピーという言葉もございまして。野菜や草花を育てることは、健康にも良いということがあるそうです。つくばみらい市で野菜作りや家庭菜園の耕作放棄地などがあれば、多くの方にそういった土地を使っていただき、経験豊富な方から指導を仰げば、近所づきあいもできて、まちの活気につながると思っていますが、いかがでしょうか。

市長： 私は、100歳を迎えられた高齢者の方を、毎年お祝いに伺うのですが、100歳になっても家にいて、お元気な方が非常に多いため「いつも何をされているのですか」と質問をしました。すると「いつも畑仕事をしている」、「外に出て土いじりや草とりをしている」ということをおっしゃられる方が多いです。やはり外に出ているということや、太陽の下で土いじりをしているということが長生きに関係しているような気がしています。

また、高齢者で農作業をしている方が非常に多いです。農家の方も非常に高齢で元気な方がたくさんいらっしゃいますので、土いじり、そして働いているということもあるのですが、そういったことが長生きに関与していると思っています。

（スクリーンを見て）これはすぐ近くにある小張市民農園ですが、非常に人気があります。区画数を106から今年134に増やしましたが、まだ足りていない状況です。現在、担当課でも近くで空いている畑を貸していただけないか、農家の方に交渉に行くなど、区画を増やしていこうと努力しているところです。

また、非常に熱心な方がたくさんいらっしゃいまして、マルシェで売りたいということで、作った野菜を出品して売っている方もいらっしゃいますし、これが元となって新規就農者になれる方もいらっしゃいます。

現在、市では「(株)クボタ」と「井関農機(株)」さんに協力いただいておりますが、クボタさんには農機シェアリングを全国で初めて実施していただきました。これは、トラクターなどの農機具を新規就農者の方が国の補助金だけで購入するには高く、機械を買うには至らなくて、新規就農に漕ぎ付かない方が多かったのですが、それを「(株)クボタ」さんにご協力いただき、1台トラクターを置いて時間貸しをする

## みらい平市民センターからはじまる まちづくり 議事録（トークセッション）

という試みを行い、非常に好評をいただいております。そういうことで、ここからまたつくばみらい市内で農業をはじめ、新規就農者になって米や野菜を作ることで、耕作放棄地や休耕地が出ていますので、そういったところを解消していければいいなと思っています。

北島： ありがとうございます。まちづくりには「新しい公共」という言葉がよく使われます。これは行政だけではなく、市民が一緒になって取り組まなければいけないということです。福祉、教育、子育て、まちづくりなど、市民が積極的に参加できるということで、みらい平市民センターが活発に活用できればと思います。

また、昔、このようなCMがございました。「人は強くなければ生きていけない。でも、優しくなければ生きる価値がない。」また、私は、そこに「楽しくなければ生きる意味がない。」と言葉も一つ付け加えたいと思います。

やはり強いまちというのは財政や災害にも強いです。また、優しいというのは年寄りや若者、外国人、移住者への優しさ、楽しさは「質」と共通しますが、自分の住んでいる場所に魅力を感じる事だと思います。それらを頭に入れて、今後も市政の舵取りをしてください。ありがとうございました。

市長： ありがとうございます。